



東濃地区の子育て・親育ち通信

家庭教育なう

No.5

2026年8月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111〈内線 208〉

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

「家庭教育なう」は、恵那県事務所の HP からご覧いただくことができます。 QR コード→



家庭教育学級で「親子で楽しめる活動」を創り出す

瑞浪市立陶小学校 PTA 第 2 回家庭教育学級「親子運動会」

日時 令和 8 年 6 月 26 日 (金) 18 時 30 分～20 時 00 分
場所 瑞浪市立陶小学校 体育館
参加者 児童とその保護者 47 名



開会式にてグループごとに気合のかけ声



瑞浪市立陶小学校家庭教育学級委員会のテーマは「『笑顔が増える子育て』～心がつながるコミュニケーション～」です。

今回は、第2回家庭教育学級「親子運動会」の様子を紹介します。この会は、昨年度、家庭教育委員会で、「親子で楽しめる家庭教育学級をやりたいね。」「楽しく体を動かすのはどうかな?」「運動会で親子競技もなくなってしまったし・・・。」という話し合いを経て「親子運動会」を企画・実施となったそうです。参加者に好評だったため、今回第2回目の実施となりました。

令和8年度 第2回 陶小学校 親子運動会

- 1 開会式
- 2 ボール送り
- 3 新聞紙リレー
- 4 しっぽとり
～休憩～
- 5 転がしドッジ
- 6 8の字とび
- 7 お菓子食い競争
- 8 閉会式



開会式進行の家庭教育委員と子ども

プログラムは左のようです。
子どもチームと大人チームにわかれ、全種目、全員参加で競技をしました。競技前の整列、競技中の応援など、上級生が下級生に優しく接している場面が多くありました。

子どもは親に勝ちたい、親は簡単には負けたくないという気持ちで、自然と熱戦が繰り広げられました。親子で体を動かすのを楽しむ姿が随所に見られました。こうした体験は、単なる楽しい思い出の創出にとどまらず「絶対的な安心感」「子どもの自立心や自己肯定感」の基盤となり、「生涯続く信頼関係」となるそうです。

親子運動会! 子どもチーム VS 大人チーム 白熱の闘い



人気の「お菓子食い競争」取るコツは

○参加児童へ 直前・直後インタビュー (5 年生・女子)

直前インタビュー

「楽しみな種目は?」

「転がしドッジです。」

理由は、ジャンプして逃げるのが楽しいからです。」

直後インタビュー

「めっちゃめっちゃ、楽しかったです。」

「転がしドッジ、最後まで残っていましたね。」

「はい。最後まで(ボールに)あたらず、残っていたので、とてもうれしかったです。」(満足感一杯の表情で)



転がしドッジ ボール4つは難易度高し

○参加者の感想

「昨年度も家族で参加しました。今年も(親子運動会)あると聞いて必ず参加しようと思っていました。久しぶりに運動したこともあって、とても楽しかったです。子どももすごく喜んでいました。」



競技を支える中学生ボランティア



賞状を渡す西尾委員長 優勝は大人 A

運動会終了後、子どもたち数人に感想を聞きましたが、どの子どもも「とても楽しかった。」と口々に答えました。笑顔いっぱいでした。

今回の親子運動会の参加率は、約60%だったそうです。この参加率からも、この取組を楽しみにしていたご家庭がたくさんあったことがわかりました。参加者の中には外国にルーツがある方もみえて、このイベントがある・・・ことで、親子だけでなく、親同士、子ども同士のつながりにも役立っていることがわかりました。

土岐市こども家庭課 スマイルアッププログラム2 委託 (Mama's Cafe)

取材日 令和8年6月17日〈プログラムは全6回 取材した日は第6回目(最終回)〉

場所 土岐市文化プラザ 3階

参加者 (1歳～3歳までのお子さんを子育て中のママ) 8名

進行 NPO 法人 Mama's Cafe 奥村美紀さん、稲垣麗奈さん (SUP ファシリテーター)

参加者とファシリテーターが織りなす温かな雰囲気の中、「学び」が深まりました



スマイルアッププログラム2は、「1～3歳のお子様をもつママ向けのプログラムです。参加者は子どもを預けて学びます。はじめてから一人前の親なんていません。参加者同士で話し合い考える中で、自分に合った子育ての仕方を見つけていきます。ママが笑顔になるプログラムです。」

全6回の内容(概要)

- ① SmileUpProgram2とはトピック出し
- ②～④ 体験学習サイクルを活用して個々の事例について、指摘・分析・仮説化をみんなで検討する
- ⑤ 日々のイライラをイライラマトリックス図にて分析
- ⑥ ふりかえり 修了証授与

第6回目の内容(取材日)

- 1 始めの一言
- 2 ウォーミングアップ
- 3 ふりかえり
- 4 サポートネットワーク
- 5 情報提供
- 6 修了証授与
- 7 最後の一言
- 8 アンケート記入

*私たちのルール 時間・ため口 OK・守秘義務・批判非難なし

体験学習サイクルは「体験(する)→指摘(みる)→分析(考える)→試みる」を繰り返し、一般化(わかる)を図ることにより「学び」を日常生活に生かしていくものです。

このサイクルを習慣化することで、仕事や日々の生活における「学び」の質を高めることができると言われています。人材育成や研修にも広く活用されている手法です。

日頃の「子育て」で困っていることを改善することをねらってこの



和気藹々とした雰囲気です話が進みます

体験学習サイクルを活用します。仲間と共に考え、検討し、手立てまで高めることを目指しました。

例えば「歯磨きが泣きながらムリヤリになってしまう」というような子育てにおける困った事を出し合います。そして、出し合った一つ一つの困っている事をみんなで共有して、共に考え、「こんな工夫があるよ。」「それは、こうしてみたら」と改善に向けての知恵・手立てを出し合います。そして、家庭に持ち帰って実践しました。

ファシリテーターの「歯磨きの件、どうだった？」の問いかけに、「うまくいったんですよ。今は、困っていません。」との回答に、「よかったねー。」の声や拍手がわきおこりました。上手いかないケースでも受容・励ましの声があり、ファシリテーターの方から、的確なケア・サポートの声がいただけます。(さすがのアドバイスでした)

一人一人の悩みをみんなで共有し、共に考え、実践し、改善を喜び合う「温かい雰囲気」がありました。

こども家庭課 長谷川社会福祉士から情報提供



こども家庭課 鈴木課長から修了証授与



最後の一言では、参加者が口々に共に悩みを打ち明け、考え合ってくれた仲間への感謝の言葉が聞けました。

最後の一言(一部紹介します)

○最初は、すごく緊張しましたが、最後はここに来るのが楽しみでした。参加するかどうか迷っていたけれど、参加してよかったと思います。ここでの学びを活かして「余裕のある子育て」を目指していきます。

○(このプログラム)あと20回ぐらいできました。(笑)育児のことは自分のことで、うまく話せるかなとか、話しても私のことなので、相談してもみんなにとってはどうなのかな?と思っていました。でも、みんな一生懸命考えてくれてすごくありがたかったです。(中略)私は「子どもはどう思っていたのかな。」という視点が抜けていたことに気付くことができて、とても良かったです。

<参加者に感想を伺いました>

私は SUP1を体験していたので、この SUP2も参加したいと思っていました。下の子が産まれたのですが、託児で子どもを預かってもらえたので、安心して参加できました。皆さんと「子育て」についてじっくり学べ、気持ちもリフレッシュできて、とても良かったです。

「つながり」で実現した家庭教育委員会主催 PTA 教育講演会

阿木中学校 PTA 教育講演会「夢をもつことと、自分を客観視することの大切さ」

日 時 令和8年6月17日(水) 14時15分～15時15分
場 所 中津川市立阿木中学校 体育館
講 師 山内寛史さん(元サッカー選手:セレッソ大阪・FC岐阜など)
参加者 阿木中学校全校生徒45名、保護者など22名



今、夢ははっきりしていなくても、熱中できることを見つけ、求め続けよう



中津川市立阿木中学校で行われました家庭教育委員会主催 PTA 教育講演会について紹介します。

この講演会の講師は元 J リーグサッカー選手の「山内寛史」さんでした。演題「夢をもつことと、自分を客観視することの大切さ」サブタイトル「予測不能な世の中を切り開くためのヒント」からもわかるように、自分の生き方を模索する中学生とその保護者にとって、とても有意義な内容でした。

会の司会進行をする西尾家庭教育委員長



山内寛史さん教育講演会 主な内容

- 1 家庭教育委員長 挨拶・講師紹介
- 2 山内さん自己紹介・サッカー選手時代の動画にて
- 3 人生の折れ線グラフ
- 4 苦しかった経験・ケガとの闘い
- 5 自分を客観視すると…足りないものが見えてくる
- 6 感謝の気持ちを忘れない
- 5 山内さんと小南先生のトーク&質問コーナー
・夢を叶える人とそうでない人の違いは?
・プロの世界はすごいですか。
・どんな気持ちでプレイしていましたか。など
- 6 お礼の言葉(生徒会長)
- 7 全校生徒との記念撮影



○軽妙なやりとりで会場の雰囲気もなごみました。質問に答えてもらった生徒も満足そうでした。

○生徒会長お礼の言葉

「夢をもつことが大事だとわかりました。自分にはまだはっきりとした夢はないけれど、今日のお話にあったように、自分の好きなことはあるので、そのことをしっかりとやっていきたいと思います。」
*講演会後、山内さんとの懇談の中で、「手応えはどうでしたか。」と伺ったところ、「(生徒会長の)お礼の言葉を聞いて、言いたかったことをつかんでもらえたことがわかり、うれしかったです。」とおっしゃっていただきました。

お礼の言葉と花束を手渡しました



○山内さんは、ご自分の実績をたいへん謙虚にとらえられ、講演中も中学生の反応を大切にされながら、一言一言かみしめるよう、誠実にお話をされていただきました。

→この講演会を親子で聴くことでこれからの進路を考える共通の基盤ができるような気がしました。親子の間で「あなたの熱中できること、精一杯応援するからね。」そんな会話が聞こえてきそうです。👏

「つながり」で実現した山内寛史さんの教育講演会

- 1 阿木中学校勤務の小南先生が職場体験学習にあたって、かねてからサッカーで親交のあった「山内寛史さん」の話を生徒に聞かせたいと考えていた。
- 2 山内寛史さんのお父さんは中津川市の出身。
- 3 山内寛史さんはFC岐阜の時に「ホームタウン応援大使」として中津川市を担当、中津川市と縁が深まりました。
- 4 山内寛史さんを招いてお話を聞くことはできないか検討。
- 5 齋藤校長先生を始め校内での検討、PTA 会長ならびに家庭教委員会の賛同もあって、家庭教育委員会主催「教育講演会」として企画。
- 6 山内さんもお自身初めての「講演会」ということで、いろいろな思いの中で快諾され、今回の企画が実現!

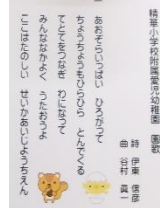
講演会後、笑顔の記念撮影



幼稚園・保護者の主体的な取組で実施する「家庭教育学級」

多治見市立精華小学校附属愛児幼稚園「マクラメを作ろう」

日 時 令和8年7月2日（木）9時30分～11時00分
場 所 多治見市立精華小学校附属愛児幼稚園2階遊戯室
参加者 幼稚園の保護者と卒園児の保護者 24名
講 師 早川 由実 さん（園の保護者・マクラメ協会認定講師）



楽しい！ 習う喜び 普段 おうちではできない「マクラメ」づくり



完成した「マクラメ」と一緒に記念撮影

多治見市立精華小学校附属愛児幼稚園には、保護者の組織として本部役員会を中心に「行事委員会」と「教養委員会」があります。今回の「マクラメを作ろう」は「教養委員会」の主催で開催された家庭教育学級です。その

様子を紹介します。

「マクラメを作ろう」の講師は早川由実さんです。在園児の保護者でもあり、マクラメ作りの講師の資格ももちです。2年前の家庭教育学級で、マクラメ作りの講師を依頼され、たい



講師の早川先生

へん好評でしたので、今年で連続して3回目の講師となりました。作品も1回目は「キーホルダー」、2回目は「クリスマス飾り」、今回は「ストラップ」でした。→

マクラメ作りは、様々な結び方を規則的に繰り返すことで、美しい模様ができていきます。その結び方を学ぶことができました。

早川先生から説明を聞き、やってみます。見て、聞いただけではわかりにくいところもあるので、本部役員、教養委員の方々が待機してみえ、アシスタントの役割を行なってみえました。

【本部役員、教養委員のみなさんは事前に早川先生に「ストラップ」の作り方を習われたそうです。当日、アシスタントの役割ができるように考えて…とのこと。参加者が、わからないとき、困ったときに作り方を聞けるための配慮が行き届いていました。】



家庭教育学級の今後の流れを説明する安藤会長・教養委員のみなさん

○参加者の交流

在園児の保護者と卒園児の保護者が一緒に作業をしていました。随所に楽しい会話も交わされていて、作品作りを楽しむとともに、交流も楽しんでいる様子も伝わってきました。

○参加された方の感想

「これで参加するのは、3回目になりました。マクラメ作りはとても楽しく、できあがったときにはやり切った感を感じます。今回、子どもは小学生になりましたが、ぜひ参加したいと思っていました。」

ひもを結び合わせて模様や形を作り出すマクラメづくり 楽しさが集中の原動力



今回の託児は、本部役員の皆さんが手分けして行われました。こうした配慮で、安心して活動に参加できます。

○教養委員会の取組紹介 アルバムおもいでのページ

教養委員会の取組に、「アルバムづくり」があります。卒園にむけて、アンケートをとって「好きな給食」等、ランキングなどを「思い出のページ」として作成したりします。教養委員会と先生方が協力する形で、アルバムづくりを支援をしています。今回、その実物を拝見させていただきました。→

まさに、世界に一つしかない宝物でした。（表紙の絵は、お子さんが描いたものです。）

